

令和7年度学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立西戸山小学校

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	児童理解を深め、学級経営や専科経営を充実させ、温かな人間関係の中で、目標、内容、活動を明確にした授業や語彙力・表現力等の基礎的言語能力を習得することにより、基礎的・基本的内容の習得と思考力・判断力・表現力の育成を図る。
環境作り		時間や場所の制約に対して ICT の活用や、効率化を図り、先行研究に触れながら実践研究を行い指導力の向上に努める。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none">・ 姿勢、声の出し方、話の聞き方、学習の基本的な約束などを確実に身に付けるようにする。・ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて読めるようにする。・ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞、句読点、鍵括弧などの使い方が理解できるようにする。・ 自分の思いや考えをもち、それを言語で表現できるようにする。・ 算数の基礎・基本を定着させる。・ 具体的な場面に基づいて、数量の関係に着目し、計算の意味を考えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">➤ 話型や学習の約束を提示する。➤ 音読練習、読書の時間を確保し、多様な文章に触れさせる。➤ 授業で繰り返し正しい使い方を確認する。ノートやワークシートの表記の仕方を丁寧に指導する。➤ スピーチや対話の機会を設定する。➤ 具体物、半具体物を使用する。➤ 数に着目し、具体物や図などを用いて計算の仕方を考える活動を行う。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none">・ 順序に気を付けて、話したり書いたりする力を身に付けられるようにする。・ 文字を正しく書いたり、計算を正しく行ったりできるようにする。・ 課題に沿って学習し、自分の考えを発表したり、相手の考えを理解しようとしたりする力を身に付けられるようにする。	<ul style="list-style-type: none">➤ 話型や文章のひな型を掲示し、計画的に繰り返し指導する。➤ 日常的に音読練習やスピーチを行ったり、読み聞かせや学校図書館を活用する機会を増やしたりする。➤ 文字や計算の力を定着させるために、デジタルドリルや紙のドリルを活用し繰り返し練習したり、家庭学習の習慣付けを図ったりする。➤ 授業では毎回めあてを確認し、ラインを引いたり具体物を操作したりしながら、正しく課題を捉え、自分の考えをまとめる時間を確保する。➤ ペアや小グループで考えや意見を交流する機会を設ける。

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を正しく読んだり書いたりするために、配当漢字や、言語に関する知識の定着を図る必要がある。文章構成を理解することと、正しく書き表すことが必要である。 ・自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える能力の向上を図る必要がある。 ・四則計算の基礎を確実に身に付けるために、計算の仕組みを十分に理解する必要がある。繰り上がり、繰り下がり の計算、大きな数の仕組みにも課題がある。 ・具体的な場면을式に表したり、既習事項を活用して問題を解決したりする力の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味を理解しながら、書かれていることを正しく読み取ったり、長音や拗音、促音、撥音などの表記、助詞、句読点、鍵括弧などの使い方を理解して、正しく文章を書いたりできるようにする。 ・話の中心に気を付けて、自分なりの思いや考えをもち、それを表現できるようにする。 ・正しく計算処理できる知識、技能を身に付け、定着できるようにする。 ・既習事項を活用し、言葉や図、表などを用いて問題場면을表すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 文章を書く際に、既習の漢字を使う習慣を身に付けさせるとともに、表記等を丁寧に確認する。 ➤ 日常的に音読や読書の時間を確保し、多様な文章に触れさせる。 ➤ 国語辞典を様々な場面で活用する。 ➤ 話型や学習の約束を提示する。 ➤ 様々な教科において自分の考えを書いたり、対話したりする場面を設定し、表現力を向上させる。 ➤ 四則計算のデジタルドリルやプリントに日常的に取り組み、定着させる。 ➤ 都度、既習事項を確認することで、活用して問題を解決することができるようにする。 ➤ 個で思考する時間、ペアで考えを伝え合う時間、全体で交流する時間を確保することで、思考を深められるようにする。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にし、筋道を立てて自分の考えを表現する力を身に付ける必要がある。文章の組み立てや順序を正しく捉えて理解し、読み取ったことを基に文章で表現する ・国語科においては「正しく受け答えをする」「事実を正確に伝える」「情報を分析する」などの技能を伸ばす必要がある。 ・算数科においては、筋道を立てて考え、伝えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を示しながら自分の考えを表現できるようにする。自分の考えを観点に沿って文章で書く活動を継続する。 ・国語科においては「正しく受け答えをする」「事実を正確に伝える」「情報を分析する」などの技能を伸ばすために、言葉の正しい使い方を意識した指導を図る。 ・算数科においては、言葉や数、式、図、表などを用いて、筋道立てて考える児童を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自分の体験や既習事項、叙述などを根拠にして考えさせる。 ➤ 対話を重視した言語活動を行う。児童の意見を価値付けながら、指導を行う。 ➤ 説明や理由・手順の説明の仕方を授業の中で指導する。
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を正しく読み取るために、配当漢字や、言語に関する知識の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味を理解しながら、書かれていることを正しく読み取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 朝学習の時間を活用して読書量を確保する。日常的に語彙を向上させる。また、デジタルドリルを活用する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える能力の向上を図る必要がある。 ・ 基礎・基本の計算を確実に理解する必要がある、知識・技能の習得を図る。特に整数の乗法や除法の仕方の理解に課題がある ・ 具体的な場面を式に表す点で課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見や考えを分かりやすい文章で伝えるための工夫を身に付けられるようにする。 ・ 正しく計算処理できる知識・技能を身に付けさせる。 ・ 問題場面を正しく把握し、図や式で的確に表現できるようにする。確実に計算処理できる技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 発問を工夫したり、例示やモデルを提示したりする。自分の考えを言語化し、交流する機会を意図的に設定する。自分の考えや意見を言語化するために毎日担任と日記のやりとりをする。 ➤ 基礎的な計算問題のドリル学習を行う。集団の実用に合うよう単元計画を工夫する。自己解決の時間を確保する。 ➤ 文章題のドリル学習を行う。場面を図に表す経験を積み重ねる。
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の内容を把握するために、基礎的な言語の習得と、漢字学習の定着を図る必要がある。 ・ 自分の考えや意見をもてるようにする必要がある。 ・ 図形の基礎・基本の定着を図る必要がある。図形単元の平面図形や合同な図形の対応する辺など、理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の意味を理解しながら、書かれていることを正しく読み取れるようにする。 ・ 自分の意見や考えを分かりやすい文章で伝えるための工夫を身に付けられるようにする。 ・ 条件に合った図形をかけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 音読の宿題や読み聞かせを行うことで読書量を増やす。 ➤ 自分の考えや意見を言語化するために毎日担任と日記のやりとりをする。 ➤ 図形単元では、実物投影機能やデジタルドリルを活用し、実感を伴う理解を促す。作図の仕方を児童が相互に確認、あらゆる計器で正しい作図ができるようにする。

■ 効果的なデジタルドリルの活用について

- ☒ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☒ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☒ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☒ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☒ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☒ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

- ・ 算数での習熟度別少人数指導のグループ編成に参考資料として活用している。
- ・ 個人の課題に応じて、朝自習の時間、家庭学習での活用を推進している。

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・ 学習内容の定着を図る単元末においては教科書に加え、デジタルドリルの活用を進め、基礎・基本のさらなる定着を図るようにしている。
- ・ 図形をタブレット上で動かしてしきつめる問題など、試行錯誤しながら答えを見つける活動を取り入れている。児童は、図形を回転させたり反転させたりする中で、「どうすれば隙間なく並べられるか」を考えることができ、空間認識や論理的な思考力の育成につながっている。
- ・ 単元のまとめやテスト前などに復習として活用することで、学習内容や基礎基本の定着を図るようにしている。
- ・ 算数の学習において、課題が終わった児童に取り組みさせることで学習内容のさらなる定着を図るようにしている。
- ・ 既習事項の確認の時間に取り組んだり、宿題で取り組んだりすることで、繰り返し練習を重ねて習熟を図るようにしている。